

提言書

京浜臨海部沖に首都圏第三空港を

平成13年2月
社団法人神奈川経済同友会

社団法人神奈川経済同友会

代表幹事 平松 一郎

代表幹事 平澤 貞昭

京浜臨海部沖に首都圏第三空港を

当神奈川経済同友会は、首都圏第三空港を国家的な重要プロジェクトととらえ、新空港に求められる機能、立地要件等について検討を加えた結果、以下のように京浜臨海部沖への新空港建設を提言する。

提 言

首都圏第三空港の建設にあたっては、新たな空港が①高い機能性を持った国際空港であること、②本格的な需要と優れた利便性を有する立地となること、③建設・運用に関して経済性・効率性が重視されること、が重要な要件となる。

京浜臨海部は、東京国際(羽田)空港はもとより、横浜・東京両都心部に近接し、同時に大きな再開発余地と既存交通インフラを持つなど、その沖合海上は新空港の適地要件を満たしている。

以上から、当神奈川経済同友会は、京浜臨海部沖への新空港建設と具体化に向けた早期の検討着手を提言する。

Ⅰ. 首都圏第三空港の必要性

経済・社会のグローバル化が進展するもとの、アジア諸国をはじめとして空港の整備が急テンポで進んでいるが、わが国では、首都圏における東京国際(羽田)、新東京国際(成田)の両空港の能力が、21世紀初めには限界に達すると見込まれている。

こうしたなか、首都圏における①将来的な航空需給の逼迫に対応し、また、②航空サービス機能・能力を世界的な水準に近づけるために、新たな国際空港の建設は国家的なプロジェクトとして大きな意義を持っていると考えられる。

空港の起工から供用までに要する期間の長さを考慮すると、建設地の速やかな決定と早期の建設着手が望まれる。

Ⅱ. 首都圏第三空港に求められる必須条件

首都圏第三空港が、将来的な航空需要の増大を満たし、またその機能を最大限に発揮するためには次のような条件を満たす必要がある。

【空港の機能性・発展性の高さ】

まず、新空港の機能面については、将来に渡って高い機能性と発展性を有することが重要であり、そうした観点からは次の諸点を充足する必要があると考える。

- ① 24 時間対応の国際空港であること
- ② 国内線空港への乗り換え・乗り継ぎが一体化され、至近距離で行われること
- ③ 旅客と航空貨物の両方が併用可能であること
- ④ 超音速旅客機就航に備えた滑走路の設置が可能であること

【本格的需要と利便性、空港建設・運用の経済性・効率性】

また、新空港の立地面については、本格的な需要が期待できるとともに、高い利便性を持ち、さらに建設・運用にあたって経済性・効率性を重視する必要があるが、そうした観点からは次の諸点が重要である。

- ⑤ 首都圏の居住人口重心点から近い立地であること
- ⑥ 都心及び首都圏居住人口重心点への移動インフラ(道路、鉄道、新交通システム他)がかなりの部分既に集積、整備されていること(横浜・東京都心部へ 30 分程度以内で移動出来ることが望ましい)
- ⑦ 上記に関連して、周辺インフラ整備も含めた建設コスト及び運営コストが国際競争力を保持出来ること(価格競争力のある空港整備とする)

Ⅲ. 新空港候補地としての京浜臨海部沖の適地性

京浜臨海部沖は上記の首都圏第三空港の必須条件を満たしているとともに、とくに次の諸点で高い優位性を持つ建設適地である。

【羽田空港との一体的運用等による高い空港機能の発揮】

第1に、羽田との地理的近接性を活かし、例えば新空港と羽田空港の一体的運用などによって、貨客両面で利便性の高い国際空港の建設が可能である。

【空港周辺部の開発余地の大きさ】

第2に、京浜臨海部の埋め立て地等を空港機能を高める臨空地域として活用することで、高機能で魅力に富んだ空港ゾーンを展開するための余地も大きい。

【既存交通網の活用による経済効果の最大化と経済的・効率的な空港建設・運営】

第3に、京浜臨海部はアクアラインと首都高湾岸線との結節点を擁するなど、道路交通網の整備が進んでいる。このことは空港から都心部、首都圏各地へのアクセス時間を最小化し、大きな経済効果をもたらすと同時に経済的・効率的な空港建設・運営を可能にする。

【既存インフラの有効利用】

第4に、上記に関連して京浜臨海部の鉄道、道路等の既存交通インフラの最大活用が図られる。

IV. 首都圏機能の拡充に寄与する新空港

新空港の建設は建設投資等直接的な需要の拡大のみならず、次の様に県内ひいては広く首都圏の経済・産業・社会の活性化に寄与する。すなわち、

- ① 臨空部及びその周辺地域においては、航空貨物の拠点整備による物流面からの産業支援、例えばIT関連産業の既存企業の業容拡大や外資を含む新規企業の立地促進などによる地域産業の高度化が期待できること
- ② 神奈川県域を中心とするさらに広い範囲のビジネス・研究拠点においては、情報交流が活発化し、高付加価値サービスや研究・開発が進展すること
- ③ 同じく県域を中心とする広い範囲において、ビジネス・観光客の滞留の割合を高め、地域のコンベンション、ビジネスサポート、観光サービスなどビジター産業の需要拡大が見込まれること

さらに、上記のような産業面ばかりでなく、地域住民の利便性向上、国内外との交流を通じた生活・文化面の充実等、国際交流基盤としての機能発揮が期待される。

V. 結 語

以上のように、首都圏第三空港の建設はわが国の国家的なプロジェクトとして重要な意義を持つと考えられると同時に、新空港に求められる機能、立地要件等から判断して、建設地は京浜臨海部沖が望ましいと考えられる。

当神奈川県経済同友会は、京浜臨海部沖への空港新設とその早期実現に向けた検討着手を提言するものである。

以 上